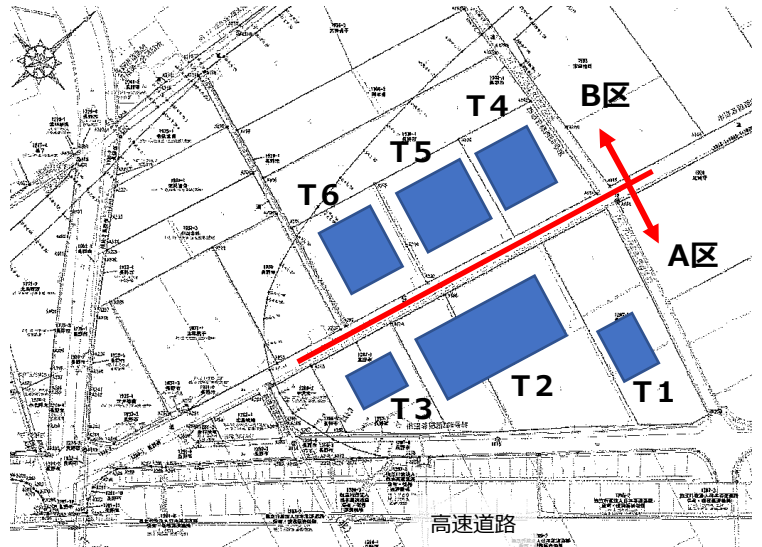


## 《これまでの調査とこれからの予定》

発掘調査開始からおよそ2ヶ月が過ぎました。崩落防止・安全確保のため、調査区は道路から10m離すことを原則として、6カ所の調査区を設定しました。このうち、T4・5とした2地区で川田氏館跡に関連する遺構群が発見されたことは、前号でお知らせしたところですが、その詳細が明らかとなってきました。また、その他の調査区では同様の遺構群が確認されなかったため、さらに下位の平安時代と古墳時代の水田跡の調査のため、重機で深掘りをし、調査を進めています。



川田糸里遺跡調査区

調査期間も残すところ1ヶ月となりました。今後は、水田跡の調査が主となるため、泥や水との戦いとなります。重機での深掘りも2カ所で計画しています。道路や用水路を汚さないよう注意を払いますので、引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。また、調査区域内には危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようお願いいたします。発掘の見学を希望する方は、事前にご連絡ください。

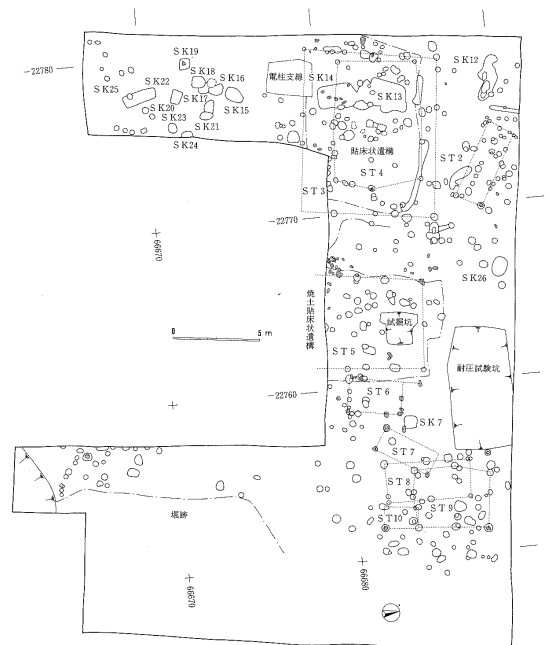
## 《川田氏館跡に関連する遺構群》

1999年(平成11年)に長野市教育委員会が実施した川田保育園(現、認定こども園川田)の改築工事に伴う発掘調査で、上下2面の調査が行われました。その結果、15世紀後半の溝により規制された10棟の建物跡や焼土を伴う土坑、工房跡を想起させる貼床状遺構などが発見されました。

今回、T4・5区で見つかった遺構群は、遺構確認面の土層の状況や遺構検出面の標高などから2次面に相当すると考えられます。



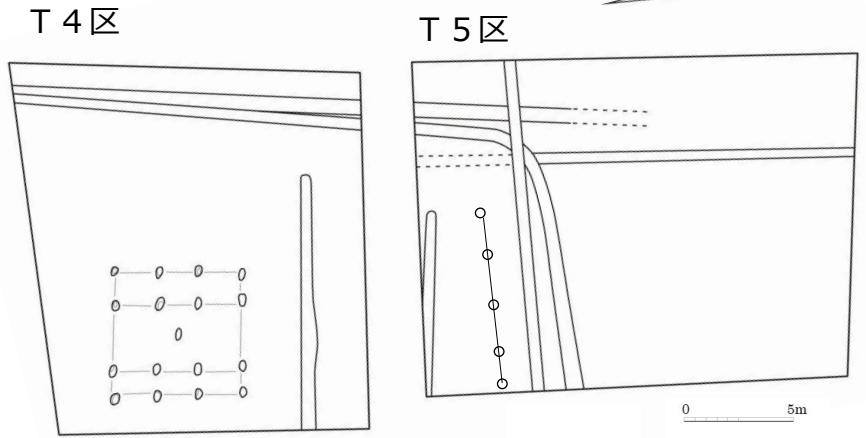
奥に高速道路が見えるね。



川田氏館跡 2次面遺構分布図

今回発見された遺構群は、右図に概略を示したように、T 5 区で直角に近い角度で曲がる溝跡（区画溝）の北西側に掘立柱建物跡などが展開し、それ以外は、南北または東西に延びる溝跡を除いて遺構は確認されていません。

掘立柱建物跡は、柱穴の配置が特異で、1 間×3 間で、東西に庇が付く建物とみるか



遺構分布 概略図

どうか判断することが難しい建物ですが、一般の集落跡で発見される建物とは大きく異なっています。周囲には数多くの柱穴があるので、さらに検討を加えていきたいと考えています。

溝跡は、いずれも最下層に砂が堆積しているので、水の流れたことが推測されます。T 5 区では区画溝の北側に並行して柱穴が等間隔に並ぶ様子がうかがえ、塀などが立っていた可能性があります。また、T 4・T 5 区で東西方向に並行する溝跡は、焼土や炭化物が多く含まれ、鉄滓（鉄器作りで排出される不純物）も出土しており、鍛冶工房に関わる施設かもしれません。

このように、今回発見された遺構群は、溝で区画された屋敷地であったと考えられます。

## 《今月のイチ押し!! 小さな出土遺物が遺構群の時期を語る!》

溝跡を掘下げていくと待望の土器・陶磁器が出土しました。中国から輸入された青磁や白磁、国内では石川県の珠洲焼、岐阜県の中津川焼や山茶碗、地元産のカワラケなど、いずれも小さな破片ではありますが、種類も豊富です。当遺跡が、当時の全国的な焼物の流通ルートにしっかりと組み込まれていたことを物語っています。

焼物それぞれの特徴から、写真で示した通り、時代・時期がわかります。その結果、今回発見された溝で区画された屋敷地は、鎌倉時代のものであることがはっきりとしてきました。

川田氏館跡は室町時代のもので考えられていますので、今回発見された屋敷地は一時代前のものとなり、これが基盤となり、川田氏館跡へと発展していったのでしょうか。



画花文青磁皿（12世紀後半）



珠洲焼 壺底部（13～14世紀）



白磁碗（12世紀）



土師質土器 カワラケ（13世紀）

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話：026-293-5926

担当：上田、寺澤

携帯：070-2640-1406

メール：[maibun@naganobunka.or.jp](mailto:maibun@naganobunka.or.jp)

H P：<https://naganomaibun.or.jp>